

前年度の成果と課題		教 育 目 標		校訓（和・敬・信・愛）を基盤とし、生徒・教職員・地域が誇りに思える学校となることをめざす。					総合評価			
○積極的なあいさつ、規範意識の向上、活発的な生徒会活動などの生徒の取組に、生徒、保護者、地域からも一定の評価が得られることができた。今後も継続していきたい。 ○人権教育や道徳教育に対する評価は高いが、今後も生徒や教職員の人権教育を高めるとともに、いじめゼロ、D評価ゼロをめざす。 ○PTA活動や地域との連携に対する評価は高く、学校運営協議会における取組も充実しつつあるが、保護者や教職員の理解が十分でない。一層の啓発活動が求められる。		運 営 方 針		学ぶ喜びを実感し合い、生徒が自立した社会人となるような育成をめざす。					B			
		本年度の重点目標	(1) 興味や関心をもって学び、基礎学力の確実な定着をめざす。									
			(2) 人権教育及び道徳教育の充実を図り、生徒一人一人の心に寄り添う。									
			(3) 「時を守り、場を清め、礼を正す」を基本とし、基本的生活習慣の確立と規範意識の向上をめざす。									
			(4) 将来に対する明確な目標を持ち、社会に出て通用する人間を育成する。									
			(5) 自立するための意欲と実践力を育成するとともに、すべての子どもが共生できる教育をめざす。									
学 校 経 営		評 価 の 観 点		I	II	評価	成果と課題（評価の分析）		次年度への課題と改善策等		学校関係者評価	
学校教育目標		HPや学校通信などにより情報発信を積極的に行い、生徒集会や学級指導において校訓や学校教育目標について理解を深める。		B	B	B	生徒が校訓に触れる機会を増やしているので校訓への理解は高まりつつあるが、今後も校訓の意味を生徒へ伝えて行かなければいけない。		校訓・教育目標の意味を教職員が理解し、それぞれの言葉で伝えながら、生徒が教育目標に触れる機会を増やすようにする。		日常の継続的な取組の成果が数字として表れてきた。校訓の意味を理解した、言動・実践ができる生徒の育成に更に励んで欲しい。	
学校行事		生徒の主体性を大切にし、生徒と教職員が一体となった学校行事を行う。		A	A	A	生徒は少しでも良い行事にすることで、思い出に残るものにしたいと積極的な取組ができた。教職員においても生徒の取組を支援することができた。		今後も、どのような状況下においても生徒が積極的に参加する姿勢を大切にしながら達成感を味わえるものにしていきたい。		日頃の学習の成果を発表する機会である学校行事を通じて、生徒一人ひとりが感動体験を得られるように工夫や改善をしてほしい。	
道徳・人権教育		人権教育及び道徳の授業の充実を図る。		B	B	B	道徳は教科として、人権学習も年間計画を元に各学年で継続的な取組ができた。教職員は取組に更なる工夫が必要であると感じているが、生徒の意識は高まっている。		「教科 道徳」として授業づくりや評価について取り組んできた。生徒の心に響く授業をめざして実践的な研究を努めてきたので継続していきたい。また、系統的な人権教育にも努めてきた。今後も充実を図るために研修等を重ねていきたい。		生徒・保護者からの、公教育への願い・期待の大きさをしっかりと受け止め、一人ひとりをかけがえのない個人として尊重する学校になるように人権教育の推進に尽力願いたい。	
		人権教育及び道徳の授業の充実を図るとともに、アンケート調査や教育相談での早期発見・早期対応に努める。		B	B							
学 習		授業研修や職員研修を通して、授業改善に努める。		B	B	B	教職員は授業にICTの活用等で工夫に取り組んでいるが、生徒や保護者は学校に「わかりやすい授業」を期待している。生徒の課題をしっかりと分析をして、生徒の力となるような授業を展開できるように学校全体の課題としなければいけない。		教職員相互で授業参観の機会を意図的計画的に設定することで授業の質の向上をめざすとともに、「わかりやすい授業」への工夫を学校全体の課題として取り組みたい。		すべての生徒に「わかる喜び」「学ぶ喜び」を味わわせるための更なる取組が必要だ。仏の詩人ルイ・アラゴンの「教えるとは 希望を語ること 学ぶとは 誠実を胸に刻むこと」という言葉を味わってほしい。幅広い知的好奇心を持たせる工夫をし、考える主体性と、集団の中で協力できる人格を育てていただきたい。	
		一人一人に応じた家庭学習の在り方について指導・支援する。		B	B							
進路指導		三年間を見通して系統立てたキャリア教育を展開する。		B	B	B	各学年でキャリア教育を計画的に取り組んでいる。1年生は福祉体験、2年生はゲストティーチャーとして職業講話と職業体験、3年生は高等学校の進路担当の先生に高校生活や高校卒業後の進路について講話を聞くことで、考える機会となった。		各学年ともに講師の方の講話や体験はとても有意義なものであるため、更に指導の目的や内容を生徒や保護者へ周知するようにしたい。		中学校教育の3年間を見据えた進路指導がなされている。生徒・保護者に目的や内容の周知を図ると共に、生徒・保護者の願いや要望をしっかりと受け止めた実践・工夫が求められる。	
生徒指導		あいさつ：職員自らあいさつ運動に積極的に取り組む。		B	B	A	あいさつ、規範意識、生徒会活動については、生徒、保護者、教職員ともに学校全体での取組の成果として高い評価が得られている。しかし、カウンセリング活動については計画的な実施をしているものの、ケアが充分でないと感じている生徒や保護者もいるようであるため、教育相談を通じてカウンセリング活動の実施の仕方や日々の生徒との関わり方に改善が必要である。		今後も、生徒との関わりを大切にしながら生徒の良い部分を伸ばしていけるような指導に努めていきたい。また、カウンセリング活動については、スクールカウンセラーとの連携を図りながら生徒理解に努めるとともに、長期欠席している生徒や欠席傾向にある生徒との関係づくりに努めて、安心して登校できるように取り組まなければいけない。		あいさつ、規範意識を高める日常的な取組については継続的に行ってほしい。生徒が主体的な行動をできるよう、また、励ましを通して自尊感情を育てられるような生徒育成に尽力を願いたい。カウンセリングに関しては、生徒や保護者の願いをしっかりと受け止め、寄り添い、温かく見守ってほしい。	
		規範意識：集団生活において、ルールやマナーを守ろうとする心を育てる。		A	A							
		相談活動：生徒からの相談に真摯に向き合い、カウンセリング活動を計画的に行う。		B	B							
		生徒会活動：専門委員会活動を活性化し、生徒主体とした取組を進める。		A	A							
地域・保護者との連携		PTA活動：魅力ある活動内容になるように工夫し、PTA活動への理解と協力を図る。		A	A	A	生徒が安心して学校生活が送れるように、学校行事のサポートや環境美化へ積極的に取り組んでいた。また、学校運営協議会の活動を教職員へ周知すること、コミュニティスクールの活動には全ての教職員が参加することで協力体制が整ってきている。PTAとの連携も進めることができた。		「あいさつ標語コンクール」、「防災学習」、「読み聞かせ」、「運動場の草刈り」、「校内剪定作業」等の情操教育へとつながる活動や美化活動などを継続的に行っており、PTAも積極的に取り組んでいたように感じます。単年度の取組ではなく継続的に取り組んでいたいため保護者へ周知されるようになった。また、全ての教職員が活動に関わるようになり、教職員の中でも活動内容を周知することができた。		学校運営協議会が主体となりPTAの方々と連携し、「あいさつ標語コンクール」、「防災学習」、「読み聞かせ」、「運動場の草刈り」、「校内剪定作業」等の諸活動が、推進・定着しつつあることは喜ばしい。「子どもや学校のためになる」「教職員の負担軽減に寄与する」等の取組が、継続的な活動として定着しつつあることは評価できる。更に、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映させ、生徒一人ひとりが誇りに思える学校造りに邁進したい。	
		学校運営協議会：コミュニティスクールについての理解を深めるために啓発活動に取り組むとともに、PTA活動との連携を図る。		A	B							
学校評価		学校評価委員会等を設置し開催している。		A	A	A	教職員、生徒、保護者を対象に学校評価アンケートを実施し、学校評価アンケートについて集計結果をもとに学校評価委員会（学校運営協議会）にて関係者評価をいただいている。評価を受けることで、学校運営に関する課題や、生徒や保護者が学校へ求めること、期待することが明確となるため貴重な機会となっている。		教職員、生徒、保護者、学校評価委員会（学校運営協議会）で得た評価を学校全体で共有し、生徒理解や保護者との連携に生かすように努めていきたい。		生徒や保護者の願いをしっかりと受け止め、寄り添い、温かく見守り、保護者や地域の信頼が得られるような実践を続けてほしい。	
		生徒や保護者等を対象としたアンケート（授業評価を含む）を自己評価に適切に活用している。		A	A							
		自己評価の結果を踏まえた学校関係者評価を実施している。		A	A							
		保護者や地域住民等に学校関係者評価の結果を公表している。		A	A							